

切除不能大腸癌肝転移に対する 肝移植の現状と展望

2024年11月18日(月) 19:00-20:00

開催形式：完全オンライン

事前申込：不要



会議参加リンク：Zoom ミーティング
<https://gunma-u-ac-jp.zoom.us/j/81822140349?pwd=wHhslktblBnb8YkQloECWfyeWK2a23.1>
ミーティング ID: 818 2214 0349
パスコード: 516963

総合司会：佐伯 浩司(群馬大学大学院 消化管外科 教授)

■ 特別講演

司会：調 憲(群馬大学大学院 肝胆膵外科 教授)

講師：波多野 悦朗(京都大学大学院 肝胆膵・移植外科 教授)

講演タイトル：

「切除不能大腸癌肝転移に対する肝移植の現状と展望」

■ ディスカッション

司会：佐伯 浩司(群馬大学大学院 消化管外科 教授)

ディスカッサント：高張 大亮(群馬大学大学院 腫瘍内科 教授)

ディスカッサント：白石 卓也(群馬大学大学院 消化管外科 助教)

切除不能な大腸癌肝転移に対する現在の標準療法は化学療法(C)だが、海外においては近年肝移植(LT)が有望な結果を示している。こうした背景から C+LT の併用療法を C 単独と比較した初のランダム化試験が実施された。2024 ASCO Annual Meeting において、Prof. René Adam (Université Paris-Saclay, France) が本試験の中間解析結果を報告し、LT+C 併用療法が生存率を改善するとの結果に話題が集まった。すなわち、5 年生存率で C 単独群 13% に対して LT+C 併用群 57% と肝移植群の極めて良好な成績が示された。

本シンポジウムでは、本邦で先進医療 B としての切除不能大腸癌肝転移に対する生体肝移植に中心的に取り組んでおられる波多野 悦朗先生(京都大学大学院 肝胆膵・移植外科 教授)をお招きして、切除不能大腸癌肝転移に対する肝移植の国内外の現状についてご講演いただき、今後の展望を議論したい。さらに波多野先生には先進医療 B における肝移植の適応基準や先進医療を受けるための手続きなどについても具体的にご紹介いただく。

問合せ先：群馬大学がんプロ事務局 [✉ ganpro.gunma@gmail.com](mailto:ganpro.gunma@gmail.com)